

令和6年度 学校関係者評価委員会 開催報告書

専門学校 岡山情報ビジネス学院

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

専門学校岡山情報ビジネス学院の自己点検・自己評価の結果を、卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者に報告し、ご助言・ご意見をいただくことで、自己評価結果の客観性を高め、学校運営の課題について継続的な改善を図っていく。

2. 学校関係者評価委員

名前	所属	区分	出欠
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 デジタルエンジニアリング事業部 製造ソリューション部 部長	卒業生	出席 (OnLine)
石崎 公生	株式会社アド ボックス フォトグラフィ 代表取締役	PTA	出席 (OnLine)
山本 渉	医療法人 和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室 室長	企業等委員	出席
守井 照久	税理士法人 創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	企業等委員	出席
豊田 東	バイオシステム株式会社 岡山国際ホテル 総支配人	企業等委員	出席
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	企業等委員	出席
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	企業等委員	出席
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	企業等委員	出席
北牧 涼輔	NAYUG 合同会社 代表	企業等委員	出席
畑 嘉昭	株式会社トスコ 専務取締役	企業等委員	出席
浦谷 友章	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	企業等委員	出席
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	企業等委員	出席

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日時 令和6年8月20日(火) 16時00分-17時30分

開催場所 専門学校 岡山情報ビジネス学院 9階会議室

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員の方々に、自己点検・評価報告書をもとにして、学校運営状況の説明報告を行った。

1. 重点項目について

【教務】

教職員組織体制の見直しとして、①煩雑になっている業務状況の把握と整備、②次世代リーダーを中心とした各部署の状況の共有とフォロー体制の構築を行う。

退学防止のための取り組み強化として、①定期ガイダンスの実施と早期対応、②学習成果の報告と傾向分析と対策を行う。

【広報】

・入試制度の新しい試みとして、総合選抜型 A0 入試がスタートした。大学を含め入試の早期化が激化しており、学生募集の一面もある。しかしながら、新入試の一番の目的は「リーダー育成」につながる。行動派層を早期に進路決定し、入学前プログラムにて学生の熱い想いを伸ばしていくところにある。

・留学生向けの専属広報の設置

【キャリア】

例年よりも早いペースでの企業の採用がスタートしている。就職活動早期化に伴う、動機付けや自身のキャリアについて考えさせることなど、就職に対する意識を深く浸透させることが難しい。その結果として離職率等に影響が出ているように感じる。社会に適合するための十分な基礎力を育成していく。

【事務】

2025年4月の私学法改正に向けて、寄附行為改定内容の検討

【留学生】

様々な学科が入る総合専門学校の中にある留学生対象学科であるため、日本人学科とのコラボレーション授業や学校全体イベントにも積極的に参加させる。日本文化に慣れ、生活や就職に活かせるよう指導する。

2. 基準項目について

(1)基準1 教育理念・目標

【報告】

・募集要項・HP等の中で、「建学の精神」「教育理念」「教育方針」および「Admission Policy」

「Curriculum Policy」「Diploma Policy」を明文化し周知している。特に前記の「3つのPolicy」

は、出願書類の中にも、「3つのポリシーに」についての記載欄を設けて自身の考えを記入してもらっている。

・全学科カリキュラムブックを作成し、オープンキャンパス等で配布・説明を積極的に行った。各学科、3つのポリシーをはじめ、授業計画、到達目標等を記載し、どのような専門的スキルを身に付けられるかを提示。OICの学びの情報提供として活用している。

・前年度課題となっていたメイトルームの運用が開始された。秋口からのスタートであったため、大きな成果や活

動などの動きはこれからとなる。

【課題・今後に向けて】

入学後、自分で強く自立意識をもって伸びていく学生と、何となく卒業できればよしとする学生の二極化が顕著になってきた。学生のモチベーションアップ・維持のために学校全体として方策を考えていく必要がある。教職員の研修に盛り込み進めていきたい。

【特記事項】

前年、学生の多様化として課題となっていたクラスに馴染めない学生に対するメイトルームの運営が開始された。

【委員からのご意見】

- ・深化が必要だと感じた。言葉が一人歩きしていないか、理解しているが行動で示せているか、ピントは合っているか、相互確認が必要だと思う。
- ・マナーなどの人間力を高めるが、ある意味では難しいところである。そこが身に付けば大丈夫だと思っている。
- ・今後の学校運営にあたり、今以上に各業界との連携を強化することが重要と考える。業界の専門家や現場の声をより取り入れたカリキュラムの改善を是非進めてほしい。
- ・スペシャリスト・即戦力の人材を育成するためには、企業の業務や戦略等が日々進化し続ける中で、先生のスキルアップも向上しなければならない。これは多忙な中では困難と感じる部分もある。現場実習の回数を増やし、最先端で働く現場の業務や知識を肌で感じ、習得することが必要で即戦力の近道と思う。
- ・現状に合った理念・目標を掲げ、それに対して評価を行っていると思う。
- ・人間力を重視し、地元産業界へのニーズを基にした教育に大変共感している。
- ・適切に実施されていると感じる。

(2)基準2 学校運営

【報告】

・ここ2年間の急激な学生数の減少に伴い、学科間でお互いフォローし合うことで学校運営が成り立ってきた状況は今後厳しくなってくる。中期計画・単年度事業計画をしっかりと連動させ、学生規模・学科編成の再構築と教職員の構成のバランス、教育的視点と経営的視点をしっかりと持ち運営を行っている。

【課題・今後に向けて】

・経営側と実務側がお互い情報をしっかりと共有し、一人ひとりが自分の役割を果たし、結果として組織力の強化を図れるよう定着を進める。

【特記事項】

・2023年度に新たな職務分掌の構築を行い、2024年度より実施している。

【委員からのご意見】

- ・やるが増えている時、同時にやらないことも決めているか。足し算ばかりでなく引き算もあっていいのではないか。
- ・スキルアップは大変だが、企業でも研修や会議等はある。お互い頑張っていこう。
- ・難しい面はあると思うが、「講義や実習、就職指導などの細やかな対応＝教職員に対する満足度向上」このためにも、専任教員1人あたりの学生数比率で検討することも必要と思う。
- ・専門学校の魅力は、入学してその先の就職先の魅力が必要と考える。卒業生の就職先企業の情報やコメント

をHPやパンフレットに載せ、OICで学べば達成する可能性がある」と認識させることが必要と思う。

- ・高く評価している。世の中の変化が急速であるために、イノベーションを起こす取り組みが必要と思う。
- ・自己採点で議事録の公開の評価が低い、今後改善されると認識。

(3)基準3 教育活動

【報告】

- ・「自立」を教育テーマとして先行き不透明な時代であっても、自分の力で生き抜ける知識と人間力を養う。3つの自立(経済的、精神的、社会的)を促し、学生の人生を応援する。
- ・学科ごとに業界のニーズや卒業生アンケートを参考にして、卒業後の理想の姿について教員間で話し合い、学科ごとの3つのポリシーを策定。カリキュラムブックに掲載することで入学予定者へも周知をおこなっている。
- ・ビジネス系学科のリニューアルを実施。業界と高校生のニーズに沿った教育体制を構築。

データマーカー学科 → デジタルビジネス学科(名称変更)

経営アシスト学科 → 経営アシスト学科+マネジメント研究科(新設)

診療情報管理士学科 → 医療情報マネジメント学科(名称変更)

公務員学科 → 公務員総合学科(名称変更)

国際ITシステム学科 → 国際ITビジネス学科(名称変更)

【課題・今後に向けて】

- ・講義にはシラバスを作成して公開しているが、シラバスの精度においては、バラツキがある点が課題。非常勤や新入教員が増えている状況において、記述方法や粒度を明確にしたガイドラインが必要。
→シラバスガイドラインの作成と研修によって教職員に周知徹底する。
- ・授業評価について、フィードバック後にどのような改善を図っていくか計画が明確にならずに、その場の注意に留まっていることが多い。具体的な改善に向けたアクションプランの策定が必要。
→教師の授業改善に向けた目標設定を策定。アクションプランを作成し、進捗状況をトラッキングして達成状況を確認する。

【委員からのご意見】

- ・高いエネルギーを持ちながらせ糸に接している姿勢は素晴らしいと思う。
- ・企業側もニーズが多様化している気がするが、学校の交流やイベント参加などで、元気の良い学生が多い印象。今後も期待している。
- ・教職員に負担を掛けることのない方法、手段で目標管理をするよう目指してほしい。一般的なMBOや1on1をするのでは、負担が増加するだけになるかと思う。
- ・OICは人間力のある生徒さんに育っていると感じる。可能であれば、岡山を代表する社長の講演会を複数実施することで生徒さんの将来の道標のヒントを見出すことができると思われる。
- ・キャリア実習以外に、もっとオープンな形で企業と学生との接点が生まれるような企画を推進することによって、学生が「学校での学びが、どのように社会に繋がっているか」を実感できると思う。
- ・より実践的な職業教育を行っていただけたらと思っている。
- ・カリキュラムの変更や新しい取り組みがいつもあり、評価している。
- ・いろいろな活動に挑戦されている感じがする。

(4)基準4 学修成果・教育成果

【報告】

「就職活動について」

24 卒について、売り手市場もあり、例年よりも早いペースで内定の結果を出すことができた。一方で、学生の多様化に伴い、就職することの意義を伝えたり自身のキャリアを前向きに考えさせたりすることが難しくなっている。また、意識の低い学生に対して手取り足取りになってしまう場面もあった。主体的かつ積極的な行動を促せる取組みを実行する必要がある。

「卒業生の離職について」

3 年以内離職率は全国平均に近い値で収まっているが、半年で 1 割近くの離職者が発生しているのは入り口時点でのミスマッチが発生している結果だといえる。売り手市場によって安易に内定を取ることができた学生が、キャリアを考えずに内定が取ればいいと考えてしまったことや、社会に適合するための十分な基礎力を育成することができていなかった結果だと受け取れる。

【課題・今後に向けて】

・売り手市場によって進路をよく考えないまま早期離職につながっている。

→自分にあったキャリアを実現するためのサポートを強化するための多面的なプログラムを用意して、個人の特性にあった多様なキャリア形成支援を行う。

・卒業生在職意識調査において、相対的に主体性や熱意の項目のポイントが低い。企業から求められる人材とのギャップがある。

→学生から自ら考えて運営するような経験として、学校行事の運営を学生主体で行えるように学生会のような組織体を作り、成功体験を積むことで自信を持って主体的に活動できる学生を育てる。

【委員からのご意見】

・資格取得は明確な指標や目標になるが、得た知識をどう使うかが重要なためそれほど見ない。今日、お話しされていた税理士さんの言うとおりでと思った。先生方も内定が出たら少し落ち着く感情になると思う。内定がゴールではないはず。Diplomapolicy を果たすことが学院の役割かと思うので、更にギアを上げてほしいと思った。

・質・量ともに、学生時代よりも社会に出てから、本当に勉強が始まるとすれば、資格を取得したスキルを身に付けて卒業ではない。学生時代に「一生学び続ける習慣を身に付ける」という観点が重要だと考える。学生同士がお互いに授業の中で(課外活動ではなく)挑戦し、お互いに失敗を許容できるマインドを醸成することが大事なのではないか。教員から学生に、学ぶことのそれ自体の楽しさ、学んだ先に何があるのかを、企業と連携しながら伝えていっていただけたらと思う。

・早期離職に繋がらないような施策が必要と感じている。実際の仕事の把握、インターンでの体験等、学生時代にしっかり学べる環境をつくってあげてほしい。

・OICの総合力をもっと社会に認知していただく取り組みがほしい。

・人材育成に力を入れて教育をしていると感じる。

(5)基準5 学生支援

【報告】

・精神不調について、他者と交われない、周囲の目が気になるといった理由から、集団での行動に馴染むまでの一定の期間が必要な場合がある。

→2023 年度からメイトルーム(別室登校)を設置。馴染めるまでの一時的な避難場所として活用したことで精神的な負荷を軽減することができた。

・退学への対応として「予防措置→早期検知→対応」といった段階を追った対応が必要になる。クラスの活性化や学力低位層に対しての個別フォロー、ガイダンス(面談)など、学生の言葉に傾聴して心情の変化を掴むことが必要。

→退学抑止に向けた教員研修を実施。目的意識の統一と現在の学生の気質に沿った指導について意思統一を図る。

【課題・今後に向けて】

卒業生とのつながりは担任教師とのつながりが中心であり、体系的に卒業生に向けた情報発信や支援精度、同窓会の運営ができていない。

→同窓会の運営の仕組み構築と、定期的な情報発信、卒業生の連絡先の確認など、同窓会運営に向けた取り組みを検討する。

【委員からのご意見】

・親身な先生がすごく多い。

・同窓会はよいと思う。

・今後の改善方策に挙げた同窓会の運営や定期的な情報発信などを、是非実施していただきたい。そうした活動を通して、新たなつながりや卒業生同士での新たなビジネスのチャンスにつながり、学校へのよい循環になるのではないかと思います。

・十分と感じる。

・サポート体制が充実していると感じ、また卒業生 OB、OG の活躍はいろいろな場面での教育に効果的だと思う。

(6)基準6 教育環境

【報告】

毎年5月に私立専修学校報告書の提出があり、土地・教室・実習室・管理教室の状況について県へ提出している。県からは内容のチェックとそれに対する報告を受けている。

インターンシップ(企業実習)も学生全員参加を義務付けており、企業様の協力をいただきながら実施している。防災や安全管理は、ビル管理会社と連携し、消防防災訓練は年2回実施、設備の点検は業者や消防に依頼し、法定点検を行ってもらっている。また、2024年度より日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループとしてリスクマネジメント委員会を立ち上げ全社的にも防災に努めていく。その中で、グループ企業として、よりスクエアビルとの連携も深めていく。

【課題・今後に向けて】

校舎が商業ビル内にあることで、一般の方も出入りする環境にある。学校とビルとの連携でセキュリティ面での強化が必要。

→学校単体で解決できる問題ではないので、ビル管理会社、セキュリティ会社とも相談しながら対策を講じていく。

【委員からのご意見】

・避難訓練等はどうしても形式的になるが、一人でも多く理解して行動してほしいと思っている。防災グッズをいくつか用意して、説明するとかも重要。

・スペシャリスト(専門力)、即戦力人材の育成をするためには、時代に沿った技術に触れさせる機会を与える必要があるかと思う。この点の環境整備はどのようになっているか。不足しているものがあれば、是非、企業も巻き込んで検討するようしていただきたい。

・地震が多発する中で生徒の不安があると思う。避難訓練の実施をされていると聞いたが、実際、地震が起きた際にはパニックになってしまう。先生方の避難誘導訓練が一番大切だということを肝に命じてほしい。避難経路の確認(左側階段の倒壊)、各フロアでの誘導(右側階段からの避難)など様々な状況を想定した訓練の実施が必要と思う。

・ラボの設置を評価している。

・教育環境について、充実していると感じる。しかしながら、項目に記載されている「防災、安全管理」について、目立つ所に避難経路・避難場所の表示(掲載)があってもよいと感じた。

(7)基準7 学生募集

【報告】

入試制度の新しい試みとして、総合選抜型入試(AO入試)がスタートした。時代の流れとして、大学を含め入試の早期化が激化しており、学生募集の一手としてという面もある。しかしながら、新入試の一番の目的は「リーダー育成」につながる。行動派層を早期に進路決定し、入学前プログラムにて、「頑張りたい！成長したい！」の熱い想いを伸ばしていくというところにある。

【課題・今後に向けて】

個人情報の取り扱い、安全管理などについて、文章では明記しているものの、特に保証人(保護者)への説明が十分にできていないことが課題。

→文章での明記に加え、入学前の段階ではオープンキャンパスで、入学後はオリエンテーションや保護者会等で説明する機会を設けていきたい。

【特記事項】

2023年度の最終結果として、入学者数が前年度より11.1%(42名)アップしている。

【委員からのご意見】

・来て！来て！という気持ちが強すぎると相手に逆効果なときもある。メリットばかりでなく、デメリットも示す勇気があれば共感が上がるように思う。

・自衛隊の募集も同じであるが、学生が見やすいSNSの活用を増やすのはどうか。

(8)基準8 教育の質の保証

【報告】

毎年5月に私立専修学校報告書の県への提出

・教職員の略歴を含めた教職員名簿

・法令で定められた義務項目の実施状況など

内部質保証に関する実施項目

・自己点検・自己評価 実施・公開

・学校関係者評価委員会 実施・公開

・教育課程編成委員会 実施・公開

- ・第4 様式の情報公開
- ・文部科学省 職業実践専門課程認定
- ・厚生労働省 専門実践教育訓練給付金指定講座認定
- ・第三者評価認定
- ・文部科学省 高等教育修学支援制度機関要件認定

その他 教員研修

- ・アカデミックハラスメント研修
- ・LGBTQ 研修

【課題・今後に向けて】

教職員の専門分野における資質向上的な研修を受ける機会を増やしていく。年度計画を立て、時代に沿った教育を展開していけるよう教員のスキルアップや情報収集を行っていく。

【委員からのご意見】

- ・丁寧に、誠実に取り組まれており評価している。

(9)基準9 財務

【報告】

財務報告につきましては、情報公開を行っている。

<https://oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/03--new.pdf>

本校 Web サイトをご参照いただきたい。

【課題・今後に向けて】

教育環境のハード面の段階的整備

→現時点では経営基盤となる資金は問題はないが、学生数の減少による収支バランスを中期的に見直し経営基盤の安定を図る。

【特記事項】

校舎の修繕計画に基づき第2次の修繕作業を行っている。費用としては大きな金額となるため、2024 年度単年度の収支はマイナスの見込みではあるが、計画的に準備してきたため資金的に問題はない。

【委員からのご意見】

- ・台所事情がしんどい時ほど売上や利益にばかり目を向けがちだが、理念に立ち戻ったり、主語を生徒にすることが必要かと思う。

(10)基準10 社会貢献・地域貢献

【報告】

県や市からの中学生向けプログラミング講座などの委託事業の受託。県や市、日本赤十字社や保育園・社会福祉施設、地元商店街やイベントなどのボランティア依頼に対し学校体制として協力を行ってきた。

【課題・今後に向けて】

ボランティアや中高生向け講座の開設等について依頼があれば積極的に引き受けて、実施している。積極的に学生側からもボランティア活動や地域貢献活動について考える土壌を育てていきたい。

→次年度に向け、分掌として組織的にボランティアの計画立案及び説明を実施していく。学生会や様々な学科

にも情報を共有し、考えや意見、立案を促す。

【特記事項】

今年度は分掌にてボランティア係を設けている。地域のイベント等により積極的な活動を行っている。

【委員からのご意見】

- ・よくされているように思う。
- ・学生の教育の一環として地域と連携しているのは認識しているが、学校として社会にどこまで取り組んでいるかは認識できていない。
- ・ボランティアなどは、学生からの発信が必要。やらされている感(意識)の排除のため。

(11)基準11 国際交流

【報告】

留学生の受入れが進んでいる。コロナウイルスの流行で伸び悩んでいたが、留学にも活気が戻ってきた。22年度 入学者数9名、23年度 入学者数5名、24年度 入学者数 25名となっている。今年度もさらに伸びると感じている。

【課題・今後に向けて】

海外からの入学者に対して、現時点で本校からの情報発信は少ないと感じる。日本語学校とのつながりで、留学生は紹介の形でオープンキャンパスに参加してくれている。海外の日本語学校等にも情報を公開できるようグローバル化を進めていく。

【委員からのご意見】

- ・留学生受け入れの目的は何になるのか。国内の学生が減少している今、不足分を留学生で補うというのは、一つの経営手段としてはありかと思う。概ね、専門学校や語学学校への留学生は東南アジアもしくは後進国が中心になるかと思われるので、人集めだけで終わってしまうと人権問題にも抵触しかねない。卒業後のフォローまでをしっかりとされていれば問題ないかと思う。
- ・昨今、企業評価は財務諸表だけでなく、環境、社会、ガバナンスといった業績以外の評価(ESG 評価)も重要視されてきている。今後、こういった点にも注意が必要かと思う。因みに、ミャンマーに限って言えば若者の海外脱出が急速に加速している。留学を目的とした日本の大学と専門学校の連携で留学生フェアなどもやっている。現地コーディネーターを配置してやっており、留学生を本格的に増やすのであれば、手段は結構多くある。
- ・全体を通して感じたのは、経営と教育という意味相反する部分を両立させないといけないというジレンマが経営陣にも教師陣にも存在しているところが垣間見えたように感じる。双方のバランスが重要ではないかと思う。
- ・日本語力の向上と日本の風土を理解する！当たり前だが、これに尽きる。微力ながら少しでもお役に立てればと思っている。
- ・留学生への学生支援の他にも、日本文化の理解を図る活動も行ってほしい。
- ・留学生のオープンキャンパスも行っていると聞いている。積極的に活動されていると感じる。